

令和6年度 第2回 まつやま人口減少対策推進会議 総会

【日 時】令和6年11月5日（火）

14：00～15：30

【場 所】松山市教育研修センター3階
中研修室

会 議 次 第

1. デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業の効果検証
2. 第2期松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況及びKPIの進捗状況等
3. 第7次松山市総合計画及び次期総合戦略
4. 今後の推進体制
5. その他

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)の効果検証結果

資料1

No	交付対象事業の名称	事業概要	R5年度 交付金 受入額	KPI(単位未満は四捨五入)			
				項目	R4実績	R5目標	R5実績
1	憧れ誇りまつやまプロジェクト ～ライフステージ、ライフイベントに応じた若者の定住・Uターン促進による若者人口増加プロジェクト～ (R1～R5)	●若者プロジェクトチーム運営、アプリ等維持管理事業 ・地元大学生が地元企業に対するコンサルティングを実施 ●若者のUターン促進事業 ・オーダーメイド型の移住体感ツアーや婚活ツアーの実施や、移住フェアへの出展 ●若者の定住促進事業 ・フリーバーバーによるプロモーションの実施や、大学生防災士による「防災リーダークラブ」による防災教育などを実施	33,203千円	Uターンによる転入者数	1,562人	718人	1,624人
				若者求職者のうち就業に至った人数	1,033人	948人	1,421人
				ツアー等参加者数	230人	213人	213人
				アンバサダー数	4,039人	12,000人	7,502人
2	産地競争力強化事業 (R1～R5)	●成長品目の事業規模拡大への取組 ・アボカド等の生産量拡大のための試験や、ユーカリの育苗体制の整備など ●流通販売促進の取組 ・トップセールスによるブランド商品のPRやSNS、ライブコマースなどを活用した積極的な情報発信	15,782千円	「まつやま農林水産物ブランド」製品等の取扱店舗数	637店	387店	696店
				新たな圏域での販売促進活動による「まつやま農林水産物ブランド」製品の売上高	3,727千円	3,400千円	4,461千円
				「松山アボカド」生産量	8,150kg	4,100kg	4,089kg
				市内消費者が地元産の農林水産物を利用する割合	61%	49%	73%
3	「ことば」を軸とした文化芸術による関係人口拡大事業 (R2～R6)	●文化的なまちを推進する取組 ・2020年に応募された「ことば」の活用や、シンポジウム等を実施 ●関係人口を拡大する取組 ・「俳句ポスト365」の運営や、俳句甲子園全国大会を実施 ●民間主導のまちづくり ・市民参加型学習プログラム「アーバンデザイン・スマートシティスクール松山」を開講	40,007千円	松山市への移住者数	2,787人	524人	2,994人
				俳句甲子園全国大会のために松山を訪れたOBOGの数	103人	41人	77人
				「ことばのちから」や「松山アボカド」のイベント参加者数	4,408人	4,478人	2,227人
4	多様な人材活用による仕事づくり推進事業 (R2～R6)	●都市部の複業人材等を活用した人手不足対策支援 ・都市部の創業人材と市内企業のマッチングプログラムをオンライン中心で実施 ●短時間勤務を活用した企業労務改善事業 ・松山しごと創造センターで、創業予定者や企業経営者等を対象に経営課題の解決や戦略による打開策の相談を実施	7,500千円	事業を通じてのマッチング人数(関係人口)	44人	50人	59人
				労務改善を実施した企業数	16社	24社	23社
5	第2のふるさと、新しい人の流れ創出事業 (R3～R7)	●グリーンスローモビリティ活用事業 ・グリーンスローモビリティを観光客等へ貸出し、移動の脱炭素化、観光振興につなげた ・ソーラーカーポートで発電した再生電力の一部をグリーン電力証書化 ●観光産業の高付加価値化と自立性を実現するプラットフォームを支援 ・地域課題の解決等に向けた活動を行うプラットフォーム(SDGs推進協議会)を支援 ●サステナブルツーリズム推進事業 ・民間企業とタイアップし、自然体験や食体験を通じたSDGs旅行商品を販売・PRするなど、SDGsを核とした体験型の修学旅行や周遊観光を促進し、滞在時間と観光消費額を拡大	31,457千円	サステナブルツーリズムの利用者数	前年度+11,278人 (単年利用者:27,401人)	前年度+3,000人	前年度+5,124人 (単年利用者:22,277人)
				サステナブルツーリズムの利用者のうち、地方への移住又は通学に興味を持った割合	前年度+8.7% (単年割合:23.1%)	前年度+8%	前年度+4.7% (単年割合:18.4%)
				ほしふるテラス姫ヶ浜の利用者数	前年度+1,771人 (単年利用者:3,716人)	前年度+200人	前年度+258人 (単年利用者:3,974人)
				グリーンスローモビリティの走行距離	前年度+2,962km (単年走行距離:5,032km)	前年度+1,500km	前年度+1,787km (単年走行距離:6,819km)
6	スゴ技、すごモノを世界へ売り込む愛媛の営業推進事業 (R1～R5)	●松山港振興事業 ・松山港の機能強化と地域経済の活性化のため、松山港利用促進協議会が、貨物量の取り扱いが増加している事業所等を補助	570千円	県関与年間成約額	No 6～7の事業は 愛媛県提出事業のため、 KPIの進捗管理は 行っておりません。		
				商談会・フェア開催(参加)件数			
				商談会・フェア参加企業数			
7	デジタル人材の教育・育成・誘致と産業のDXによる本県産業の稼ぐ力強化プロジェクト (R4～R6)	●高度デジタル人材シェアリング事業 ・デジタル人材を県内市町間でシェアリングし専門性の高い支援等を受けた ●デジタルデバйд対策事業 ・デジタルデバйдの解消のため、スマホ相談窓口の設置やスマホ教室の開催	2,042千円	本事業を通じたデジタル人材の教育・育成・誘致者数			
				本事業を通じたデジタル人材の移住者数			
令和5年度交付金受入合計額			130,561千円				

「第2期松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」 各施策のKPI達成状況（計画期間R2～R6）

資料2

基本目標① つながる未来を応援する(少子化対策)

成果指標	基準値 (H30年度)	実績値 (R5年度)	目標値 (R6年度)
合計特殊出生率	1.40	1.25(令和4年の数値)	1.58

達成状況：◎→R5年度の実績値が目標値を達成している。○→R5年度の実績値が基準値を上回っているまたは同等。△→R5年度の実績値が基準値を下回っている。

政 策					
施 策	重要業績評価指標<KPI>	基準値 (H30年度)	実績値 (R5年度)	目標値 (R6年度)	達成状況
1 ライフデザインの構築					
①若者世代の人生設計(ライフデザイン)の構築に向けた支援	ライフデザイン講座受講後のアンケートで、ライフデザインを考える参考になったと答えた受講者の割合(%)	-	85	92	△
②子育て世帯を含めた女性活躍推進のためのキャリア支援	本市の支援制度を利用して職場復帰を果たした人数(人)※累計	6	-	35	-
	松山市男女共同参画推進センターの「まどんな応援企業」認証団体数(団体)	74	102	88	◎
2 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現					
①仕事と生活の調和の実現	ワーク・ライフ・バランス等の講座の開催回数(回)	77	94	94	◎
3 出会いから子育てまで切れ目のない支援の充実					
①出会いの場の創出	イベントでのカップル成立数(組)※累計	73	347	354	○
②妊娠・出産支援の充実	不妊治療費助成(特定不妊治療・一般不妊治療)の申請件数(件)	630	720	1,100	○
③小児医療の充実	小児救急医療体制が確保されている時間割合(%)	100	100	100	◎
④子育て支援の充実	利用者支援事業(保育・幼稚園相談窓口、くーふぁん、すくすくサポート)の利用件数(件)	9,236	10,744	18,370	○
⑤子育て世帯の経済的負担軽減	愛顔っ子応援券(おむつ券)の交付件数(件)	2,229	1,665	2,229	△
⑥子育て拠点や居場所づくりの充実	児童クラブの入会児童数(人)	5,255	5,680	6,439	○

基本目標② 松山への定着と新しい人の流れをつくる(移住定住対策)

成果指標	基準値 (H30年度)	実績値 (R5年度)	目標値 (R6年度)
社会移動数(転入数－転出数)(人) ※R2からそれぞれの年度までの平均	△74 (H27～R1の平均)	△128 (R2～R5の平均)	均衡以上 (R2～R6の平均)

達成状況：◎→R5年度の実績値が目標値を達成している。○→R5年度の実績値が基準値を上回っているまたは同等。△→R5年度の実績値が基準値を下回っている。

政 策					
施 策	重要業績評価指標<KPI>	基準値 (H30年度)	実績値 (R5年度)	目標値 (R6年度)	達成状況
1 定住の促進					
①松山を「知る」機会の充実	松山アンバサダーによる情報発信件数(件)※累計	－	898	600	◎
2 移住の促進					
①都市イメージの向上	本市プロモーション活動における情報接触人数(人)	364,000	311,000	435,000	△
②移住相談体制の充実	移住に関する相談人数(人)※累計	733	5,173	5,200	○
③関係人口の拡大	Uターンによる転入者数(人)※累計	－	13,241	11,000	◎
④移住体験・機会の充実	定住促進施設の利用後に定住した世帯数(世帯)※累計	2	17	20	○
	移住ツアー等に参加して移住した世帯数(世帯)※累計	2	107	85	◎
⑤移住者の定着支援体制の充実	空き家バンクを活用した県外移住者数(人)※累計	6	63	57	◎
3 大学等との連携・協働					
①高校・大学等と連携した若者の定着・流入促進	地元大学との連携事業数(件)※累計	87	625	618	◎

基本目標③ 魅力ある仕事と職場をつくる(地域経済活性化)

成果指標	基準値 (H30年度)	実績値 (R5年度)	目標値 (R6年度)
市内総生産(兆円)	1.6(H28年度)	1.7(R3年度)	1.6(R4年度)
観光客推定消費額(億円)	788(H30年)	673(R5年)	828(R6年)

達成状況 : ◎→R5年度の実績値が目標値を達成している。○→R5年度の実績値が基準値を上回っているまたは同等。△→R5年度の実績値が基準値を下回っている。

政 策					
施 策	重要業績評価指標<KPI>	基準値 (H30年度)	実績値 (R5年度)	目標値 (R6年度)	達成状況
1 産業の競争力強化(業種横断的取組)					
①ICT等の利活用によるビジネス創出や生産性向上	RPA指定企業数(企業)※累計	-	30(R4)	36	○
②各種団体との連携による新たなビジネスの創出・スタートアップの支援	市の支援制度や関係機関との連携事業により創業した中小企業事業所数(事業所)※累計	614	1,180	1,550	○
③中小企業の支援	松山圏域中小企業は販路開拓市での商談件数(件)※累計	1,199	2,471	3,000	○
④企業のグローバル化支援	台湾企業との商談件数(件)※累計	-	41	60	○
⑤各種データの提供・分析・活用	松山観光WEBサイト閲覧数(PV: ページビュー)	1,176,123	1,079,961	1,746,000	△
2 産業の競争力強化					
①持続可能な産業立地の促進	新規立地及び増設をした指定企業数(企業)※累計	97	112	127	○
②戦略的観光振興による域内経済活性化	外国人観光客推定数(万人)	21.7	21.6	31.0	△
③魅力的な農業の成長産業化	認定農業者である法人数(法人)※累計	42	60	63	○
④文化・芸術・スポーツ等の地域資源を活用したビジネス創出	松山市スポーツ大会・合宿等開催助成金を交付した大会・合宿開催件数(件)	40	21	45	△

3 良質な雇用の場の創出と人材の育成・確保					
①人手不足の解消	外国人受入企業支援数(件)	-	0	50	△
②職業能力向上と多様な就労機会の拡充	テレワーカーとして育成された人数(人)※累計	642	853	904	○
③農業の担い手育成	県調査による松山市の新規就農者数(人)※累計	-	109	120	○
④良質な雇用・労働環境の整備	松山しごと創造センター利用者のうち就職者数(人)※累計	48	1,228	950	◎
⑤地域ニーズに対応した人材育成支援	健全な職業観・勤労観に関する講座開催回数(回)※累計	59	179	149	◎

基本目標④ 住み続けたいまちをつくる(持続可能なまちづくり)

成果指標	基準値 (H30年度)	実績値 (R5年度)	目標値 (R6年度)
中央商店街への来街者数(人)	105,620	84,103	107,120
今後も松山市に住み続けたいと思う市民の割合(%)	86.0	82.3(R4年度)	88.5

達成状況 : ◎→R5年度の実績値が目標値を達成している。○→R5年度の実績値が基準値を上回っているまたは同等。△→R5年度の実績値が基準値を下回っている。

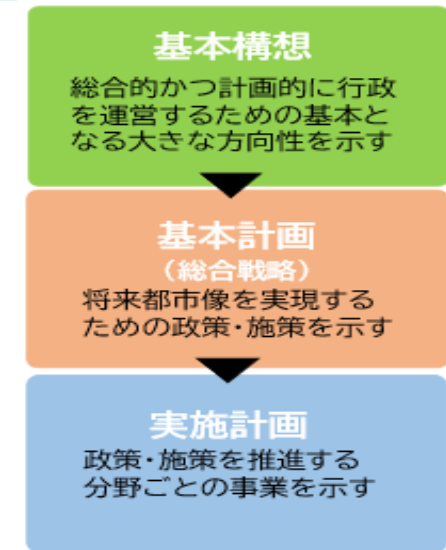
政 策					
施 策	重要業績評価指標<KPI>	基準値 (H30年度)	実績値 (R5年度)	目標値 (R6年度)	達成状況
1 持続可能な社会構築					
①SDGsの推進	SDGsの市民認知度(%)	5.4	-	50.0	—
①SDGsの推進	松山市SDGs推進コンダクターの派遣学校数(校)※累計	-	23	40	○
2 生活の質と都市力の向上					
①民間経済の活力創出と都市機能・居住環境の向上	市街地再生開発事業等の施工地区数(地区)※累計	-	0	2	△
	路面電車の1日当たり利用者数(人)	19,802	17,078	19,800	△
②安全・安心な暮らしの推進	実質赤字比率	黒字の確保	黒字の確保	黒字の確保	◎
	連結実質赤字比率	黒字の確保	黒字の確保	黒字の確保	◎
	実質公債費比率(%)	7.5	7.8	10%未満	◎
	将来負担比率(%)	58.2	20.3	100%未満	◎
	重要施設への給水ルートの耐震化状況(箇所)※累計	20	34	35	○
	耐震補強工事の補助件数(件)※累計	500	668	905	○
	歩道整備延長(m)※累計	3,632	4,891	4,362	◎

③誰もが楽しめるスポーツ・文化の充実	公民館対抗スポーツ大会の参加者数(人)	2,600	1,380	2,600	△
④健康寿命の延伸	運動を主とした自主活動グループ支援数(団体)※累計	241	250	420	○
⑤環境に配慮したまちづくり	松山市域からの温室効果ガス排出量(t-CO2)	4,328,834 (H28年度)	3,919,509 (R3年度)	3,953,663 (R4年度)	◎
政 策					
施 策	重要業績評価指標<KPI>	基準値 (H30年度)	実績値 (R5年度)	目標値 (R6年度)	達成状況
3 人口減少等を踏まえた既存のストックのマネジメント強化					
①官と民の既存ストックのマネジメント強化	公共施設等総合管理計画・個別施設計画策定及び公共施設等総合管理計画改訂の件数(件)※累計	5	12	12	◎
4 近隣地域との連携による経済・生活圏の形成					
①連携中枢都市圏構想の推進	個別連携協定等締結数(件)※累計	13	18	18	◎
5 住民が地域防災の担い手となる環境の確保					
①地域防災力の向上	防災士数(人)※累計	4,300	9,526	7,700	◎
6 誰もが活躍できるふるさとづくりの推進					
①市民主体・地域特性を生かしたまちづくり	市民活動推進補助金(次世代育成支援)交付団体数(団体)※累計	21	57	56	◎
	まちづくり協議会設立地区数(地区)※累計	30	32	41	○
	地域応援まちづくり講座への参加人数(人)	20	70	25	◎
②多文化共生の推進	外国語としての日本語教室への登録者数(人)※累計	208	139	230	△

区分	基本目標①	基本目標②	基本目標③	基本目標④
	少子化対策	移住定住対策	地域経済活性化	持続可能なまちづくり
◎ R5年度の実績値が目標値を達成している	3	5	2	11
○ R5年度の実績値が基準値を上回っているまたは同等	4	2	8	5
△ R5年度の実績値が基準値を下回っている	2	1	4	4
－ 実績値が未確定	1	0	0	1
合計	10	8	14	21

（１）総合計画とは

- ・ 市政の最上位に位置付けられる、まちづくりの根幹となる計画で、松山市総合計画策定条例に基づき策定しています。
 - ・ 将来都市像やまちづくりの方向性を示す「基本構想（10年）」、基本構想実現のための取組や数値目標などを示す「基本計画（5年）」、具体的な事業を示す「実施計画（3年）」の三層構造になっています。
- ※基本構想を策定・変更するときは、松山市総合計画審議会への諮問と議会の議決が必要です。



（２）経緯・計画期間

- ・ 現行の第6次松山市総合計画の計画期間が令和6年度末までであるため、次期総合計画を策定します。
- ・ 審議会や市議会、パブリックコメントの意見を反映した基本構想（計画期間10年）は、今後、市議会の議決を経て策定予定です。今回は、基本構想に基づく前期基本計画（計画期間5年）を策定するものです。
- ・ なお、これまで人口減少対策の基本的計画として、別々に策定していた「松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を第7次松山市総合計画と統合し、一体的に推進していきます。

【前期基本計画の計画期間】 令和7年度～令和11年度

年度	令和7 (2025)	令和11 (2029)	令和12 (2030)	令和16 (2034)
基本構想	基本構想（10年）			
基本計画	前期基本計画（5年）		後期基本計画（5年）	

第7次松山市総合計画の概要

<将来都市像>

人、まち、仕事がつながる交流拠点 『SETOUCHIまつやま』

<将来のまちの姿>

①「人」がつながる

年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、誰もがお互いを認め合い、「人」がつながる中で、それぞれのライフステージに応じて、一人ひとりが自分らしく充実した日々を送りながら、松山で安心して暮らすことができます。

②「まち」がつながる

国内外の様々な「まち」がつながり、地域資源の活用や文化・スポーツなどの交流で、新たなにぎわいを生み、交流拠点としての松山の魅力がより一層高まっています。また、持続可能で安全・安心な快適に暮らせる都市環境が整い、次世代に受け継がれています。

③「仕事」がつながる

女性や若者、高齢者をはじめ、障がい者、外国人など、誰もが多様で柔軟な働き方ができる環境が整い、働きがいを持って仕事をしています。また、観光業や農林水産業、製造業のほか、サービス業や医療・福祉、教育など様々な産業が連携し、市内外で「仕事」がつながり、人、物、情報、企業が集まることで、相乗効果が生まれ、地域経済の好循環が続いています。

<まちづくりの理念>

一人ひとりの幸せが 実現するまちへ
～笑顔を大切に「つながる力」で挑戦～

基本計画(パブリックコメント対象部分)

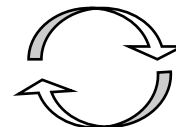
<人口減少対策に求められる視点>

人口減少対策を最重要事項として、全ての政策に必要な視点として位置づけ

- ① デジタル技術の活用
- ② 課題の背景を踏まえた分野横断的な対応
- ③ 民間との連携の更なる推進

対応策

…人口減少の抑制



適応策

…市民生活の基盤の維持
満足度や利便性の向上

<政策・施策体系>

こどもを輝く未来へつなぐ

【こども・教育】

- 011 結婚・出産を望む人への支援
- 012 切れ目のない子育て支援
- 013 学校教育の推進
- 014 こどもが主役のまちづくりの推進

人と人の支えあいをつなぐ

【福祉】

- 021 持続可能な社会保障制度の運営
- 022 高齢者福祉の充実
- 023 障がい者福祉の充実
- 024 地域福祉の促進

健康をつなぐ

【健康・医療】

- 031 健康づくりの推進
- 032 医療・保健・衛生体制の整備

自分らしさと誇りをつなぐ

【共生社会・コミュニティ】

- 041 多様な価値観が認められるまちづくりの推進
- 042 愛着と誇りが高まる地域づくりの推進
- 043 地域活動・市民活動の活性化
- 044 生涯学習、生涯スポーツ・文化芸術活動の推進

ワクワクを全国・世界へつなぐ

【都市の魅力】

- 051 人と仕事を呼び込む情報発信
- 052 人を引き付けるまちの魅力向上

人と仕事と暮らしをつなぐ

【経済・産業】

- 061 地域経済を支える人づくりの推進
- 062 地域産業の振興
- 063 産業を支える基盤づくりの推進

まちとまちをつなぐ

【交通】

- 071 良好な移動環境の整備
- 072 交通基盤の整備

にぎわいと住みやすいまちをつなぐ

【都市空間】

- 081 にぎわいのある都市空間の形成
- 082 安全な都市基盤の整備

豊かな自然と暮らしをつなぐ

【環境】

- 091 脱炭素・循環型まちづくりの推進
- 092 自然と共生するまちづくりの推進

安全と安心をつなぐ

【安全・安心】

- 101 地域の防災力向上
- 102 消防・救急・救助体制の整備
- 103 防犯・交通安全・消費者保護の推進

つなぐを支える

【連携】

- 111 連携の強化・促進
- 112 持続可能な行財政運営の推進
- 113 DXの推進
- 114 市民参画と広報・広聴の促進

- 第7次松山市総合計画では、将来都市像の実現のため、11分野の政策に取り組む
- 人口減少対策をすべての政策に必要な視点として取り入れるとともに、ウェルビーイングを追求した持続可能なまちづくりを推進

第7次松山市総合計画 将来都市像
人、まち、仕事がつながる交流拠点『SETOUCHIまつやま』

こどもを輝く未来へつなぐ	【こども・教育】	まちとまちをつなぐ	【交通】
人と人の支えあいをつなぐ	【福祉】	にぎわいと住みやすいまちをつなぐ	【都市空間】
健康をつなぐ	【健康・医療】	豊かな自然と暮らしをつなぐ	【環境】
自分らしさと誇りをつなぐ	【共生社会・コミュニティ】	安全と安心をつなぐ	【安全・安心】
ワクワクを全国・世界へつなぐ	【都市の魅力】	つなぐを支える	【連携】
人と仕事と暮らしをつなぐ	【経済・産業】		

第2期総合戦略
基本目標

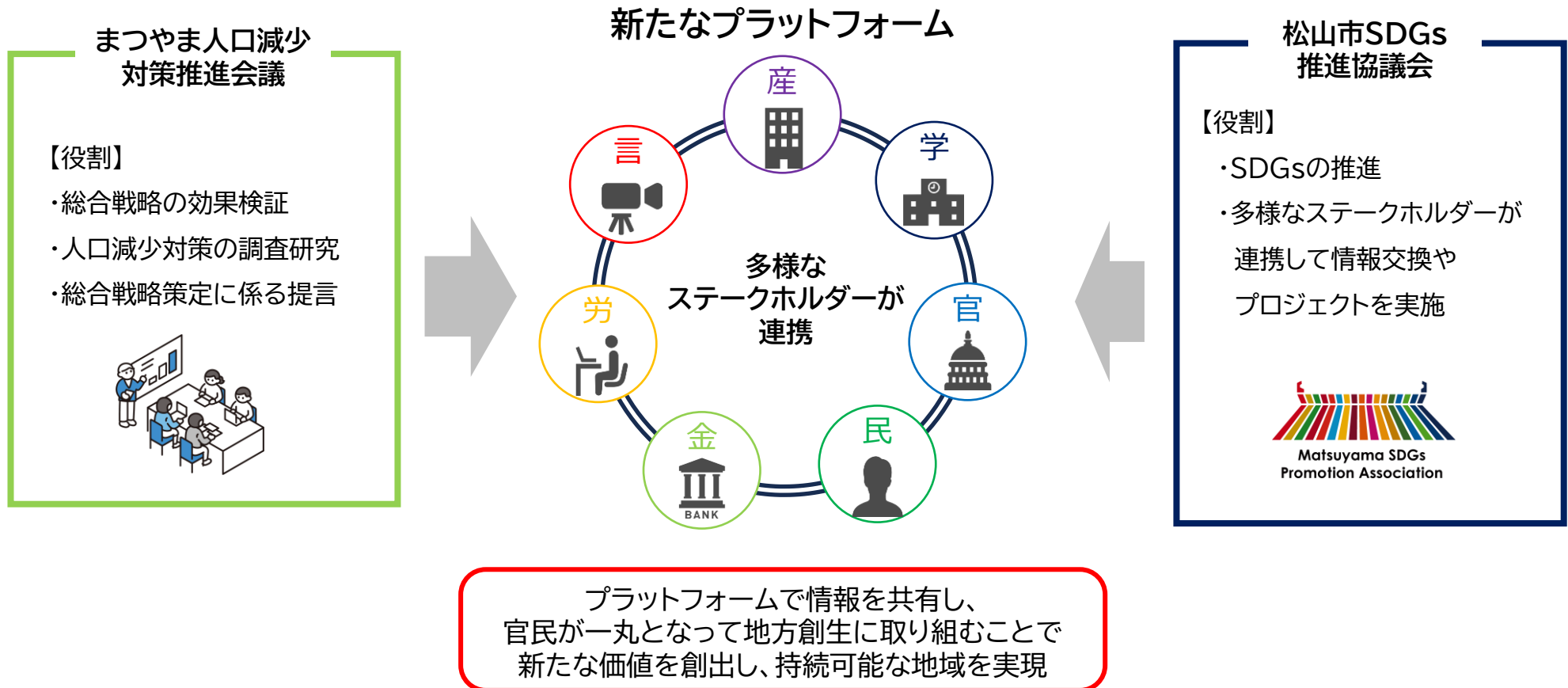
- 少子化対策
- 移住定住対策
- 地域経済活性化
- 持続可能なまちづくり

人口減少対策

SDGsの視点

新たな官民連携の推進体制について

- 「まつやま人口減少対策推進会議」と「松山市SDGs推進協議会」を統合し、新たなプラットフォームを構築
- 7次総計の効果検証を通して官民が課題や目標を共有し、行政・民間それぞれの立場からの対応を検討
- 産官学が連携して地域課題の解決や新サービス、新技術を実装に取り組み、持続可能な地域づくりを実現



新たな官民連携の推進体制について

新たなプラットフォーム

取組①

総合計画に基づく施策の検証 人口減少の調査・分析

- 総合計画の効果検証を行い、官民協働で必要な取組を検討
- 大学等と連携し、人口減少による影響の調査・分析

検証結果を
取組みに反映

取組みの
結果を共有

取組②

地域課題の解決 新たなサービス・技術の実装

- 地域課題や社会課題の解決に必要なサービスや技術について、官民協働で実証実験等を行いながら地域に実装

取組①

総合計画の進捗等
について報告



検証結果の報告

取組②

地域課題の提示
実証費用の支援



民間が地域の
課題解決に参入

松山市

○本部会議

- 市長をトップとした
部局長会議

○事務局 (企画戦略課)

- 総合計画・総合戦略
の推進
- 人口減少対策、
SDGsの推進

○各担当部局

- 施策の推進
- 課題解決に向けた
官民連携の促進

今後のスケジュール(想定)

	R6年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年 1月	2月	3月	4月
まつやま人口減少 対策推進会議		★ 第1回 総会		★ 第2回 幹事会	★ 第3回 幹事会			★ 第2回 総会		★ 解散決議(書面決議)	新たなプラットフォーム への参加依頼		新たなプラットフォームの発足・活動開始
松山市								基本構想(議案)	市議会の議決	基本計画確定		第7次総合計画 公表	

松山市SDGs推進協議会について

松山市SDGs推進協議会

- 令和2年7月31日活動開始
(当初95団体 ➡ 現在**257**団体)
※ R6年10月末時点
- 産・学・民・官・金など
多様なステークホルダーが参加連携して
情報交換や人的交流、プロジェクトを実施

↓ 協議会のロゴマーク



Matsuyama SDGs
Promotion Association

①情報を共有

セミナーやワークショップで
SDGsに関する知見や動向、
地域課題を共有



カフェ

②団体間でつながる

団体間で地域課題の解決や
事業可能性を考え、
コミュニティを形成



未来工房

③分科会で実践

目的を共有する団体で
分科会を設け、地域課題の解決
に向けプロジェクトを実践



分科会

提 言 書

令和 6 年 5 月 2 4 日

松山市長 野志 克仁 様

まつやま人口減少対策推進会議
座長 仁科 弘重

次期松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定について

当会議は、「ライフデザインプロジェクト」「企業の生産性アッププロジェクト」の専門部会を設置し、調査・研究を行った結果、次期松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に関し、次のとおり提言します。

まつやま人口減少対策推進会議は、人口減少対策についての調査研究や、松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証など、人口減少対策を民間団体主導で推進してきた。

そのようななか、令和 6 年 4 月 1 日時点での松山市の推計人口は、50 万人を下回る数字となった。松山市が平成 28 年 1 月に策定した「松山創生人口 100 年ビジョン」では、2110 年までの推計値が示されており、2025 年までには 50 万人を下回ることが予測されていたものの、人口減少が進んでいることを改めて印象付けるものとなった。

今後、松山市が持続可能なまちづくりを進めていくうえで、人口減少対策は最重要課題であり行政と民間がより一層連携し、それぞれが主体的に取り組んでいく必要がある。

そこで、人口減少対策推進会議の活動である「ライフデザインプロジェクト」「企業の生産性アッププロジェクト」をとおして見えてきた課題を示すとともに、次期総合戦略の策定にあたり提言を行う。

1. 専門部会活動で見えてきた課題

(1) ライフデザインプロジェクト

- ・人口減少社会においては、今後社会の中心を担う若者が、松山市で働き暮らしたいと希望を持てることや、松山市以外で働き暮らすことを選んだとしても、様々な形で松山市と繋がれることが重要である。
- ・そのためには、若者が自己成長や自己発揮できる機会を創出するため、若者が主体となる機会や場所を提供するとともに、地元企業や地域社会が繋がり支える体制とそれを主導する人材が求められる。

(2) 企業の生産性アッププロジェクト

- ・人口減少に伴う経済の縮小や人出不足の状況の中、地域の経済を維持するためには、AIをはじめとしたデジタルの活用により地域全体の産業の生産性を向上させるとともに、松山らしい地域資源を活用した産業の振興や起業を促進していくことが重要となる。
- ・そのためには、松山エリア内での人や企業の連携はもちろん、他都市の人や企業を積極的に取り込み、市内全体の生産性向上、産業振興が求められる。

2. 提言

- ・人口減少対策は、結婚や出産の希望を叶えられるような支援、地域経済の活性化や新たなイノベーションの創出、若者の意見を受け入れ実現する機運の醸成など、複合的に取り組むことが求められる。
- ・また、人口が減少していくことによる影響や、それに対応したまちづくりを検討するとともに、市民が幸福感や暮らしやすさを感じられるよう、松山に関わる全ての人が共通の目標に向かって、一緒にまちづくりに取り組むことが重要である。
- ・そのためには、複雑化・多様化する地域課題に対応でき、地域に新たな付加価値を生み出せる枠組みを多様なステークホルダーで構築し、持続可能なまちづくりを進めていくことが必要である。